

## 報告

## 世界天文年プロジェクト WG の報告

矢治健太郎(立教大学)

## 「世界天文年 2009」とは？

2009 年は「世界天文年」です。イタリアの科学者、ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を星空に向け、様々な発見を行ったのが、1609 年と言われています。それから 400 年目の節目にあたる 2009 年を、国連、ユネスコ、国際天文学連合は「世界天文年 2009 (International Year of Astronomy 2009)」と決めました。



この世界天文年を盛り上げるべく、世界中の天文研究機関および天文教育普及機関が、天文学に関する行事をさまざまな形で展開します。国内でもすでに、日本学術会議が中心となって、世界天文年 2009 日本委員会 <http://www.astronomy2009.jp/> が設立され、本研究会会長もその委員として名を連ねています。さらに、世界天文年 2009 日本委員会では、企画委員会を組織し、その企画委員には日本国内の天文コミュニティの代表者が名を連ねています。例えば、日本天文学会、国立天文台、宇宙航空研究開発機構、日本公開天文台協会、日本プラネタリウム協議会もそうです。そして、天文教育普及研究会からは、矢治と高橋淳(水海道第一高校)が企画委員として参加しています。

## ワーキンググループの立ち上げ

特に、天文教育普及研究会では、教育方面

での貢献が期待されています。このような状況を踏まえ、天文教育普及研究会では、世界天文年プロジェクト WG の立ち上げを、昨年の年会で提案し、その後活動を始めました。この WG では、世界天文年への取り組みについて議論し、本研究会独自のプロジェクトを企画・運営することを目的としています。

現在、WG 内で以下のような企画を検討し、世界天文年の企画委員会に提案しています。

## ○日食観察キットの製作・配布

2009 年 7 月 22 日の皆既日食に合わせて、日食めがね等の日食観察用キットを制作し、学校教育機関等に配布する。皆既日食の時、日本国内には部分日食帯もあり、皆既帯以外のところでも太陽への関心を向けさせることができる。また、ガリレオ望遠鏡から 400 年という意味でも、太陽観察に関心を持ってもらうことは重要で、日食時でなくても、学校・科学館等での太陽観察に活用できる。日食観察キットを用いた授業案・教材なども開発する予定である。現在、この企画を実現するため、太陽観察フィルターの調査を行っている。

## ○プラネタリウム製作キットを用いた教育プログラムの提案

本会会員の小貫良行(理化学研究所)が制作した自作プラネタリウムキット、亀谷光(秋田大学大学院)が制作したプラネタリウム投影用エアドームをベースに、安価なプラネタリウム及び投影用ドームを普及させることで、学校及び地方の小さな博物館・科学館等での天文教育普及を励起する。このために、指導者向けの「作製及び使い方の講習会」を開催する。

## ○天文教育シンポジウム(仮)の開催

### (1) 2008年プレシンポジウム

2009年の世界天文年を控えて、日本の天文コミュニティが全て結集して実施していく、さまざまな事業について、全国の実務を行う天文教育普及関係者(研究者・学校教員・アマチュア天文家なども含む)が集い、各コミュニティ・IYA日本委員会・全体で行う企画内容を連絡調整する場を設ける。

### (2) 世界天文年記念天文教育フォーラム

世界天文年 2009 において、各所で行われた天文教育プログラムの共有と取り組みの効果・反省を天文教育コミュニティ内全体で行い、2010年以降も活発な天文教育活動の持続と発展を目指すための方向性について協議し、実行していく場を設ける。これにより、世界天文年をきっかけに、より多くの市民が宇宙を見つめ、学ぶことができるよう、施設・組織の有機的な繋がりを持続し、発展していきたいようにしたい。

## ○全国高校生日食観測会 2009

高校生天体観測ネットワーク (Astro-HS) と協力の下、世界天文年である 2009 年に国内でおこる日食を全国の高校生(高専学生を含む)で合同観測する。

日食は観測地点によって食分や進行が異なる現象として観測される。これを全国規模のネットワークで観測することにより、参加高校生が食現象を実体験するとともに、科学的な研究活動のための観測データをまとめてアーカイブ化し、参加者で共有することを目的とする。また、皆既帯にある奄美大島では合宿形式で皆既日食観測会を実施する。

## ○星の名前と民話・神話集の刊行

世界天文年企画「東アジアの星の神話伝説」WG と連携し、東アジアの星や宇宙にまつわる神話・伝説を各国協力者で集め、各国で出

版する。また国内外の関係者をあつめて、シンポジウムやワークショップの開催を予定している。日本国内でも、これまでの成果を踏まえての出版を企画する。

## ○出版

世界天文年にあたり、天文学の教育・普及を推進する目的で会誌「天文教育」に掲載された記事を抜粋して単行本を出版する。宇宙の最新像を学校教育で実際に役立てるような立場から解説する。内容は「星々の終末」「相對論百年」。2008年度中の出版を予定。

以上のほか、世界天文年に関連した、講演と観望会なども検討中です。また、各施設・団体が企画する講演会、観望会、研究会、イベントで、世界天文年の公認を受けたい場合は、その申請方法が定められていますので、ご相談ください。当ワーキンググループに参加希望・ご関心のある方は、矢治までご連絡ください。3月1日現在でメンバーは次のとおりです。

矢治健太郎(立教大学)

高橋淳(茨城県立水海道第一高等学校)

安藤享平(郡山市立ふれあい科学館)

有本淳一(京都市立塔南高等学校)

亀谷光(秋田大学大学院)

小貫良行(理化学研究所)

篠原秀雄(埼玉県立蕨高校)

前田利久(鹿児島県立博物館)

臼田一佐藤功美子(国立天文台ハワイ観測所)

山根弘也(萩市立萩博物館)

作花一志(京都情報大学院大学)

臼井 正(京都学園大学)

斉藤泉(栃木県在住)

嘉数次人(大阪市立科学館)

北尾浩一(星の伝承研究室)

松尾 厚(山口県立博物館)

松村雅文(香川大学)